

令和6（2024）年度
九州大学大学院生物資源環境科学府
外国人留学生入試（前期）学生募集要項

令和5（2023）年6月

九州大学大学院生物資源環境科学府

生物資源環境科学府のアドミッションポリシー

21世紀の人类的課題である食料問題と環境問題を克服し、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全、人類の健康と福祉に貢献するため、生命科学、環境科学、社会科学などの学問分野に強い関心と専門基礎知識を有し、国内外を問わず、将来生物資源環境科学諸分野で活躍を目指す意欲的な学生を求めている。

1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者で、令和6（2024）年4月までに入国済若しくは入国可能な者。

(修士課程)

- (1) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者。
- (2) 外国において学校教育における15年の課程を修了し、学士の学位を得た者で、本学府において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者。

(博士後期課程)

- (1) 外国で修士論文の審査を受け、修士の学位を得た者。
- (2) 本学府において、修士の学位を得た者と同等以上の学力を有すると認めた者で24歳に達したものの。

注1)各号において、学士又は修士の学位を令和6（2024）年3月までに取得見込みの者を含む。

注2)出願資格(2)による出願者は、出願に先立ち5.に記載する出願資格の事前審査を受けなければならない。

2. 募集専攻及び募集人員

募集専攻	募集人員	注) 資源生物科学専攻 農業生物科学教育コースの熱帯作物・環境学研究分野は募集を行わない。
資源生物科学専攻	若干名	注) 農業資源経済学専攻 農業資源経済学教育コースの国際農業開発学研究分野は募集を行わない。
環境農学専攻	若干名	注) 生命機能科学専攻 生物機能分子化学教育コースの細胞内ダイナミクス研究分野は募集を行わない。
農業資源経済学専攻	若干名	注) 博士後期課程 生命機能科学専攻 システム生物学教育コースの家蚕遺伝子資源学研究分野は募集を行わない。
生命機能科学専攻	若干名	

※各専攻の研究分野等については、14～15頁を参照のこと。

3. 願書受付期間

令和5（2023）年7月10日（月）から令和5（2023）年7月13日（木）17時まで（郵送の場合も同日の同時刻までに必着のこと。）

4. 出願手続

(1) 提出書類及び検定料

提出書類等	注意事項
入学願書 受験票 照合票	本学所定の用紙を用い、黒インク又はボールペンで記入すること。 出願3ヶ月以内に撮影した上半身、脱帽の写真(3.5cm×2.5cm)を所定の位置に貼ること。
卒業証明書等 (出願資格(2)による 出願者は不要)	(修士課程) 出身大学(学部)長が発行した卒業(見込み)証明書。 (博士後期課程) 出身大学(研究科)長が発行した修士課程修了(見込み)証明書。
成績証明書 (出願資格(2)による 出願者は不要)	(修士課程) 出身大学(学部)長が発行した成績証明書。 (博士後期課程) 出身大学(研究科)長が発行した修士課程成績証明書。

修士論文	(博士後期課程のみ) 修士論文を志望研究分野の指導教員に提出すること。
在留カード等	(入国済者)在留カード(両面)及びパスポート(顔写真があるページ)の写し。 (未入国者)パスポート(顔写真があるページ)の写し。
外国語資格試験	外国語資格試験のスコア事前提出については5頁を参照。 ※環境農学専攻および農業資源経済学専攻は、出願要件にスコアが設定されているので留意すること。
検定料	30,000円(銀行振込)
受験票発送用封筒	長形3号(23.5cm×12cm)の封筒に、出願する者の郵便番号、住所、氏名を明記し、354円分の切手(速達料金を含む。)を貼ったもの。
住所票(シール)	合格通知送付用(令和5(2023)年9月7日発送)・入学手続き書類送付用(令和6(2024)年2月中旬頃発送)の住所票それぞれに、確実に郵便を受領できる住所、氏名を明記すること。

(2) 出願書類提出先

九州大学農学部等事務部学生課学生係

〒819-0395 福岡市西区元岡 744 ウエスト 5 号館 3 階 322 電話 (092) 802-4508, 4509

(3) 出願方法

(1) の提出書類及び入学検定料原符を一括し、所定の期日までに提出先へ持参又は郵送すること。
郵送の場合は、必ず書留速達とし、封筒表面に「外国人留学生入試願書在中」と朱書きすること。

(4) 受験票について

受験票が試験日の1週間前になっても郵送で届かない場合には、

4. (2) 出願書類提出先へ連絡すること。

5. 出願資格の事前審査

1. の出願資格の (2) による出願者は、出願に先立ち出願資格の事前審査を行うので、次の書類を

4. (2) の出願書類提出先へ提出すること。

なお、郵送の場合は、必ず書留郵便として封筒表面に「外国人留学生入試事前審査」と朱書きすること。

(1) 提出書類

提出書類等	注意事項
出願資格認定申請書	本学所定の用紙に必要な事項をもれなく記入すること。
最終学校の卒業(修了)証明書	最終出身学校長が発行したもの。
最終学校の成績証明書	最終出身学校長が発行し、厳封したもの。
学修歴、活動歴、実務経験等	現在までの学修歴、活動歴、実務経験等(以下「学修歴等」という)について、具体的に自由形式で記述したものを提出すること。 なお、学修歴等については下記①～④のような事項が考えられる。 また、学修歴等に関する著書、論文、報告書等があれば添付すること。 ① 大学、短期大学、高等専門学校等における学修歴 ② 研究機関、教育機関、企業等における実務経験等 ③ 海外における国際的団体等での活動経験 ④ 英語を含む語学力
返信用封筒 (資格審査結果送付用)	長形3号(23.5cm×12cm)の封筒に、事前審査を受ける者の郵便番号、住所、氏名を明記し、344円分の切手(速達料金を含む)を貼ったもの。

(2) 提出期間

要項発表の日から令和5(2023)年6月19日(月)17時までの期間

(3) 審査結果

審査の結果については、令和5（2023）年6月30日（金）までに申請者あてに通知するので、資格があると認定された者は、4.の出願手続を行うこと。

6. 試験日、試験時間及び試験科目

(修士課程)

月日(曜)	時間	試験科目	集合時間
8月22日(火)	10:00~12:00	専門科目 ^{注1}	9:50
	13:00~	口頭試問	各教育コース等の指示による
8月23日(水)	10:00~11:00	日本語(作文)	9:50

注1 専門科目の出題範囲については、6頁~12頁を参照のこと

(博士後期課程)

月日(曜)	時間	試験科目	集合時間
8月22日(火)	13:00~	口頭試問	各教育コース等の指示による
8月23日(水)	10:00~11:00	日本語(作文)	9:50

※ 修士及び博士後期課程の口頭試問の方法は各教育コースで決定し、事前に受験者に通知する。

※ 試験室及び試験時間割は、受験票発送時に通知する。

7. 選抜方法

事前提出された外国語資格試験スコア等、筆記試験、口頭試問、成績証明書を総合して行う。
専門科目については、6~12頁を確認すること。

8. 合格者発表

令和5（2023）年9月7日（木）10時に伊都地区ウエスト5号館掲示板に掲示するとともに、合格者には本人あてに通知を発送する。

9. 入学料及び授業料

入学料：282,000円（予定額）

授業料：〔前期分〕267,900円（予定額）〔年額〕535,800円（予定額）

※ 入学料・授業料については、入学時まで改定が行われた場合には、その改定額を適用する。また、授業料について在学中に改定が行われた場合には、改定時から新授業料を適用する。

※ 日本国政府の国費留学生及び中国政府の国家建設高水平大学公派研究生項目留学生については不要。

10. 願書等請求

募集要項及び入学願書等の請求は、4.（2）の出願書類提出先へ行うこと。

なお、郵送で請求するときは、返信先住所、氏名等を明記して郵便切手250円分を貼った角形2号封筒（縦33.2cm×横24.0cm）を同封の上、封筒表面に「外国人留学生入試願書請求」と朱書きすること。

11. 注意事項

(1) 願書を提出する際は、志望研究分野の指導教員に必ず事前に連絡を取ること。

(2) 願書受理後は記載事項の変更・検定料の払い戻しはできない。ただし、検定料納付後、出願しなかった者及び受理できなかった者については返還するので、4.（2）の出願書類提出先へ連絡すること。

(3) 受験票未受領者又は紛失した者は、試験開始前までに農学部等事務部学生課学生係（伊都地区ウエスト5号館）で受領すること。

(4) その他不明の点があれば、4.（2）の出願書類提出先へ問い合わせること。

12. 個人情報の取り扱いについて

入学者選抜の過程で収集した個人情報は入学者選抜の実施、入学手続き、入学後の奨学・厚生補導並びに修学指導に関する業務を行うために利用し、上記の目的以外には利用しません。

13. 受験上の注意

- (1) 試験場は、伊都地区ウエスト5号館（福岡市西区元岡744）です。
- (2) 試験当日は、各試験科目の集合時間を厳守すること。試験室には、集合時間の10分前から入室できる。
- (3) 携帯電話等は、試験室に入る前にアラームの設定を解除し、必ず電源を切っておくこと。試験室には時計はないので、各自用意しておくこと。
- (4) 遅刻による試験室への入室限度時刻は試験開始後30分とする。なお、交通機関の事故又はやむを得ぬ事由により、試験開始後30分以上遅刻した者は、監督者に申し出ること。
- (5) 試験終了までは、退室できない。

14. 入学志願に当たっての留意事項

本学府では、入学後に専攻・研究分野を変更することは原則として許可されない。従って、志望専攻・研究分野の決定に当たっては、研究内容等について十分に検討した上で出願すること。

15. 成績開示について

令和5年（2023）年11月上旬に受付を開始する予定です。詳細については、本学府HP（<https://www.agr.kyushu-u.ac.jp/>）を参照すること。

16. 入学検定料の免除について

(1) 免除申請の要件

入学検定料の免除を申請できるものは、次に該当する者です。

ア 東日本大震災、熊本地震、平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震、令和元年台風第19号および令和2年7月豪雨における災害救助法が適用されている地域で被災した志願者で、次のいずれかに該当する者

- ① 主たる家計支持者が所有する自宅家屋が全壊、大規模半壊、半壊、準半壊または準半壊に至らない損壊（一部損壊）と判断された場合、流失した場合
- ② 主たる家計支持者が死亡又は行方不明の場合

※ なお、上記災害救助法適用地域以外で被災した志願者で、上記のいずれかに該当する者については、学務部入試課（092-802-2004）へご相談ください。

イ 東日本大震災において、居住地が福島第一原子力発電所事故により、避難指示区域（計画的避難区域を含む）に指定された者

(2) 免除申請の手続

入学検定料の免除を受けようとする場合は、あらかじめ農学部等事務部学生課学生係（092-802-4508）へ連絡し、該当すると判断された者は、入学検定料免除申請（九州大学Webサイトからダウンロード、URL：<https://www.kyushu-u.ac.jp/>）に、次のうちいずれかの証明書等を添えて出願書類とともに提出してください。

なお、申請が認められた場合は、出願時に「入学検定料」を払い込まないでください。

ア (1) ①に該当する場合

り災証明書

イ (1) ②に該当する場合

死亡又は行方不明を証明する書類

ウ (1) イに該当する場合

17. その他

新型コロナウイルス感染症の影響により、実施方法等が変更になる場合があります。

外国語試験

- ・ 外国語試験は下記の外国語資格試験スコア証明書（写し）を入学願書とともに提出すること。
- ・ 試験当日スコア証明書（原本）を必ず持参すること。
- ・ 試験スコアの正式な証明書の取得には時間がかかる事に留意すること。

専攻	事前提出する外国語スコア証明書
資源生物科学	TOEIC(L&R)
環境農学	TOEIC(L&R) 550 点以上または TOEFL-iBT 57 点以上
農業資源経済学	TOEIC(L&R) 550 点以上または TOEFL-iBT 57 点以上
生命機能科学	TOEIC(L&R)

(1) スコア証明書とは、実施団体が発行し本人に直接郵送されたもので、TOEIC(L&R)の Official Score Certificate（公式認定証）または TOEFL-iBT の Test Taker Score Report（受験者成績書）を指す。いずれのスコアも出願書類提出時から **2年以内**のものに限る。

(2) 以下のスコアは認められない。

TOEIC IP、カレッジ TOEIC、TOEFL ITP テストなどの団体受験制度

TOEIC Speaking and Writing、TOEIC Bridge、TOEIC IP Score Report など

(3) 注意事項

- ・ 願書の該当欄にスコアを記入するとともに、願書提出時にスコア証明書（写し）を提出すること。
- ・ **環境農学専攻（修士課程）**および**農業資源経済学専攻（修士課程・博士後期課程）**は、出願要件にスコアが設定されているので留意すること。
なお、設定スコア未満の願書は出願できない。また、設定スコアは外国語試験の合格を意味しない。
- ・ **資源生物科学専攻（修士課程）**および**生命機能科学専攻（修士課程）**の受験者で、TOEIC(L&R)を受験しているが、出願期間内にスコアが届かない場合は、願書に受験した月日を記載し、スコア証明書が届き次第、写しを提出すること。入学試験日以降は受理しない。TOEFL-iBT では受験できないので留意すること。
- ・ 出願時より新しいスコア証明書（原本）を持参してもよい。最終的な評価は当日持参のスコア証明書（原本）のみに拠る。原本に関しては試験当日の本人確認後、本人へ返却します。
- ・ 試験当日スコア証明書（原本）を忘れた場合は、8月25日（金）17時までに、九州大学農学部等事務部 学生課学生係へ持参又は郵送すること。
なお、郵送の場合は、返信用封筒を同封のうえ、8月25日（金）17時必着とする。
スコア証明書（原本）提出について、提出期限厳守とし期限を過ぎてからの提出は認めない。

専門科目出題範囲

- ①出願者は志望研究分野の専門科目を受験する。
- ②専門科目は、以下の専門及び専門基礎両方の領域を含む。
- ③過去に出題された問題については、指導教員に確認すること。

資源生物学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
農業 生物 科学	植物育種学	専門	植物育種学	植物遺育種学(武田和義著、裳華房)、植物育種学 第4版(朝倉書店)など、植物育種学に関する教科書。「植物育種学」について、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	遺伝学	エッセンシャル遺伝学, 第3版(培風館、D.L.ハートル著)(日本語)、Essential Genetics: A Genomics Perspective (英語) ペーパーバック - 2012/11 Sixth Edition
	作物学	専門	作物学	作物学の基礎 I (農文協、中村聡、後藤雄佐、新田洋司著) また、過去に出題した問題を参照のこと。
		専門基礎	植物生理学	テイツ、ザイガー植物生理学・発生学(培風館、L.ザイガー、E.ザイガー編、西谷和彦、島崎研一郎監訳、第6版): 第三部。また過去に出題した問題を参照のこと。
	植物生産生理学	専門	植物生産生理学	作物生産生理学の基礎(農文協、平沢・大杉編)の第3、4、6~8、10、11章 植物バイオサイエンス(共立出版、川満・実岡編)の第2、3、6、7章
		専門基礎	植物生理学	植物生理学第3版(培風館、テイツ・ザイガー編)の第1、4、8、9章
	昆虫ゲノム科学	専門	昆虫ゲノム科学	分子昆虫学-ポストゲノムの昆虫研究-(共立出版、神村学他編): 第1章~5章。 過去に出題した問題も参考のこと。
		専門基礎	分子遺伝学	エッセンシャル遺伝学(培風館、D.L.ハートル著、第3版): 第1章~12章 過去に出題した問題も参考のこと。
	動物学	専門	動物発生学	ワイルト発生生物学(東京化学同人、FH Wilt, SC Kake著、第1版): 第一部発生の開始(3ページ)~第三部脊椎動物の器官形成(160ページ)まで。過去に出題した問題も参考のこと。
		専門基礎	動物学	哺乳類の生物学①「分類」(東京大学出版会、金子之史著)の内、1. 分類学とはなにか、2. 分類学と哺乳類 (1~46 ページ)、および哺乳類の生物学②「形態」(東京大学出版会、大森司紀之著)の内、1. 体の基本構造、3. 運動系、4. 歯。過去に出題した問題も参考のこと。
	昆虫学	専門	昆虫分類学	教養のための昆虫学(東海大学出版部、平嶋義宏・広渡俊哉編著)の第2章と第14章。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	基礎昆虫学	最新応用昆虫学(朝倉書店、田付貞洋・河野義明編)の第2章 昆虫学の基礎。
	植物病理学	専門	病害と防除	「微生物と植物の相互作用」(百町満朗・對島誠也編) また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	植物病理学	「植物病理学」(文永堂出版、眞山滋志・難波成任編)、「植物病理学」(東京化学同人、大木理編)
	天敵微生物学	専門	昆虫病理学	最新 昆虫病理学(講談社、国見裕久・小林迪弘編著): 第2章微生物と昆虫~第6章ウイルス病 (P. 14~P. 145)、第9章昆虫における生体防御~第10章昆虫病理学の展開 (P. 182~P. 243) を出題範囲とする。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	微生物学	バイオテクノロジーテキストシリーズ「新・微生物学」(講談社、別府輝彦著)、基礎生物学テキストシリーズ4「微生物学」(化学同人、青木健次編著)
	天敵昆虫学	専門	生物的防除学	IPM、生物的防除、天敵昆虫に関する問題(バイオロジカルコントロール(朝倉書店)、総合的害虫管理学(養賢堂)など)
		専門基礎	生態学、進化生物学、応用昆虫学	生態学、進化生物学、応用昆虫学、天敵昆虫に関する問題(生態学入門、1章から8章(日本生態学会編、東京化学同人)第2版、バイオロジカルコントロール(朝倉書店)、総合的害虫管理学(養賢堂)など)
	生物保護管理学	専門	応用昆虫学	総合害虫防除、侵入害虫問題、生物的防除の基礎に関する問題、(応用昆虫学の基礎(中筋ら)朝倉書店など)
		専門基礎	生態学	行動生態学、個体群生態学、群集生態学、動物生態学(伊藤ら)蒼樹書房
	園芸学	専門	園芸学	「園芸学」(文永堂出版、金浜耕基編)、「(農学基礎シリーズ) 園芸学の基礎」(農山漁村文化協会、鈴木正彦編著)。過去に出題した問題も参照のこと。
		専門基礎	生物学	「(生命科学のための基礎シリーズ) 生物」(実教出版、星 元紀ほか著) 「植物生理学」(テイツ・サイガー編、西谷・島崎訳、第3版、培風館)の第19-24章
	農業生産生態学	専門	農業生産生態学(作物学、園芸学を含む)	「新訂 食用作物」(養賢堂、国分牧衛著)、「園芸学」(文永堂出版、金浜耕基編)、「園芸学の基礎(農学基礎シリーズ)」(農山漁村文化協会、鈴木正彦編著)、「植物育種学 第5版」(文永堂出版、北柴大泰・西尾剛編)、過去に出題した問題も参考のこと。
		専門基礎	生物学	「生物(生命科学のための基礎シリーズ)」(実教出版、星 元紀ほか著)、過去に出題した問題も参考のこと。
昆虫産業創生学	専門	昆虫産業創生学	昆虫科学が拓く未来(東京大学学術出版会、2009年、藤崎憲治、西田律夫、佐久間正幸 著)	
	専門基礎	分子生物学	ウィーバー 分子生物学(科学同人、第4版、Robert F.Weaver 著)(日本語)	
衛生昆虫学	専門	衛生昆虫学	蚊のはなし-病気との関わり-(朝倉書店、上村清 編)	
	専門基礎	分子生物学	ワトソン遺伝子の分子生物学 第7版(東京電機大学出版局)	
生物環境調節学	専門	生物環境調節学	新農業環境工学(日本生物環境調節学会編、2004年・養賢堂)	
	専門基礎	生物学	コア講義 生物学(田村隆明著、2008年・裳華房)、主に「第11章 植物の生き方」から出題、同じカテゴリならば他の生物学教科書でも概ね共通する基礎的事項について出題する。	
熱帯作物・環境学			今回は入学生の募集を行いません	

資源生物学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
動物・海洋生物学	家畜生体機構学	専門	動物形態学	図説動物形態学(福田勝洋編著、朝倉書店)
		専門基礎	動物組織学	獣医組織学 第九版(日本獣医解剖学会編、学窓社)
	動物繁殖生理学	専門	動物生殖生理学	スッキロ動物生殖生理学(講談社、Keith K. Schiro著)。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	生理学	哺乳類の生殖生物学(学窓社、監修:高橋迪雄)。また、過去に出題した問題を参考のこと。
	畜産化学	専門	食肉科学、骨格筋科学	畜産物利用学(文永堂出版、斎藤忠夫ら著):第2章「肉の科学(p.123-213)」および「最近のトピックスと諸問題(食肉および加工食品 p.283-287)」;筋発生の細胞生物学(学会出版センター小沢鉄二郎ら著):p.1-46, p.153-181, p.196-212;身体運動・栄養・健康の生命科学Q&A 骨格筋と運動(杏林書院、跡見ら編)を出題範囲とする。過去に出題した問題を参照のこと。
		専門基礎	基礎細胞生物学	上記の範囲から出題するが、細胞生物学に関する基礎的な知識として、以下の教科書の指定範囲の内容を習得することを求める。 Essential細胞生物学 原著第5版(南江堂、B. Albertsら著 中村桂子ら監訳):第4、7、11-14、16-18、20章
	代謝・行動制御学	専門	動物時間生物学	時間生物学(化学同人、海老原史樹文・吉村崇編)第1~7、12、13章
		専門基礎	動物生理学	新編家畜生理学(養賢堂、加藤和夫・盧尚建・古瀬充宏編著)
	家畜生産生態学	専門	家畜生理学	反芻家畜の栄養生理学(農文協、佐々木康之監修)
		専門基礎	動物栄養学	動物栄養学(朝倉書店)
	動物生命科学	専門	動物生命科学	ニワトリの科学(古瀬充宏編集、朝倉書店):「3章 ニワトリの特徴」、「4章 ニワトリの栄養」、「7章 ニワトリの発生と遺伝子工学」、「8章 卵の特徴」、「9章 肉の特徴」 Sturkie's Avian Physiology 7th edition (edited by Colin G. Scanes and Sami Dridi, ELSEVIER Academic Press):「21章 Gastrointestinal anatomy and physiology」および「23章 Skeletal muscle」
		専門基礎	分子細胞生物学	分子生物学講義中継 Part3(井出利憲(著)羊土社)
	海洋生物学	専門	魚類生殖生理学	魚類生理学の基礎(恒星社厚生閣、会田勝美編)
		専門基礎	魚類生理学	水圏生物科学入門(恒星社厚生閣、会田勝美編)
	水産増殖学	専門	水産生物学	以下の2領域から1領域を選択 1.「魚類学の百科事典」(丸善出版)の第5章、6章、7章、9章 2.「藻類30億年の自然史 第2版」(東海大学出版部)の第1~6章、11章、12章、「水産海洋ハンドブック 第3版」(生物研究社)の第2章第1節
		専門基礎	生態遺伝学・系統学	以下の2領域から1領域を選択 1.「生態学入門 第2版」(東京化学同人)の第1章、3章、「遺伝学の基礎 第2版」(朝倉書店)の第2章、3章、10章、11章、12章 2.「レーヴン ジョンソン 生物学(下) 原著第7版」(培風館)の第25章~29章
	水産生物環境学	専門	環境毒性学	「環境科学入門:地球と人類の未来のために(川合 真一郎他著 化学同人)」の1-10章まで
		専門基礎	水圏環境学	「生物海洋学入門 第2版(Lalli and Parsons著、關 文威(監修) 講談社)」の1-5章まで
	アクアフィールド科学	専門	応用生態学・水産養殖学	以下の2領域から1領域を選択 1.本研究分野のウェブサイトに掲載している2014年以降の発表論文のうち、左記出題領域に関連するもの。http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/jikkensho/onikurafield/gyoseki.html 2.トコトンやさしい養殖の本(日刊工業新聞社)第1章、2章、4章、5章、8章
		専門基礎	水圏生態学・無脊椎動物学	以下の2領域から1領域を選択 1.社会基盤と生態系保全の基礎と手法(朝倉書店、皆川朋子編集幹事) 2.バイオティバニシティシリーズ5 無脊椎動物の多様性と系統(裳華房)第二部:軟体動物門、環形動物門、棘皮動物門
	水族分子発生学	専門	進化生態学	生態進化発生学 エコ-エボ-デボの夜明け / スコット・F・ギルバート著(東海大学出版部)第1章、2章、6章、9章
		専門基礎	発生生物学	発生生物学(Basic Master Series) - 東中川 徹、西駕 秀俊、八杉 貞雄(共編集)オーム社 4章、13章、14章、15章
	水族発生毒性学	専門	生命工学	以下の2領域から1領域を選択 1.本研究分野のウェブサイトに掲載している2016年以降の発表論文 https://kyushu-u.pure.elsevier.com/ja/persons/ka-fai-william-tse 2. Introduction to Biotechnology, Pearson 4th edition (Global edition) chapter 3, 7, 10, 11, 13
専門基礎		細胞生物学	Essential細胞生物学(南江堂、原書第4版):4-12、16-20章を出題範囲とする。	

環境農学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
森林環境科学	森林計画学	専門	森林計画学	森林計画学入門(朝倉書店、田中和博他編著、2020年):第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第10章 森林・林業白書(全国林業改良普及協会、林野庁編、試験の前年度に発行されたもの)の全領域
		専門基礎	基礎統計学	初等統計学(培風館、ポール G.ホーエル(著)、浅井 晃・村上 正康(翻訳)、第4版、1981年)の全領域
	森林保全学	専門	砂防学、治山学	1)新砂防工学(朝倉書店、塚本良則他編著、1991年):P2~134、145~155(山腹緑化工および海岸砂防含む、雪崩は除く砂防学全般)、2)砂防学(朝倉書店、丸谷知己編、2019年):p22~95(斜面崩壊、地すべり、土石流、火山泥流と火砕流、流木流、土砂流出、深層崩壊と天然ダム、がけ崩れ)、P149~187(土砂災害)、P188~225(砂防技術)
		専門基礎	地形学、地質学、気象学、水理学、土質力学など	1)新砂防工学(朝倉書店、塚本良則他編著):第9章<砂防の基礎知識> P156~181(水理学概要・土質力学概要、地形地質調査法概要)、2)砂防学(朝倉書店、丸谷知己編、2019年):P18~22(日本列島と環太平洋の概要)、p104-148(地形解析・水文解析・河川水理解析・降雨解析・安定解析)
	造林学	専門	造林学	1)造林学 三訂版(朝倉書店、川名 明 編著):Ⅲ. 種苗、Ⅳ. 更新、Ⅴ. 保育 2)造林学 第四版(朝倉書店、丹下 健・小池孝良 編):第1章から第8章および第11章 3)森林遺伝育種学(文永堂出版、井出雄二・白石進編、2012年):第2章p19~69、第3章p75~136、第5章p237~280
		専門基礎	生物学	エッセンシャル キャンベル生物学 [原書6版] (丸善出版、池内昌彦・伊藤元己・著本春樹 監訳):第1部、第2部、第3部13・14・16、第4部
	森林政策学	専門	森林政策学	1)林業構造問題研究(日本林業調査会、餅田治之・遠藤日雄編著、2015年):第1章、第3章~第4章、第7章:p11~54、p81~118、p163~176、2)森林・林業白書(全国林業改良普及協会、林野庁編、試験の前年度に発行されたもの)の全領域
		専門基礎	社会経済学	改訂新版 現代社会経済学(桜井書店、北村洋基、改訂新版、2013年):第1章~第10章:1~158ページ
	植物代謝制御学	専門	植物生理学	テイツ、ザイガー植物生理学・発生学(第6版:講談社、L.テイツ、E.ザイガー、I.M.モーラー、A.マーフィー編、西谷和彦、島崎研一郎監訳):1、2、7、8、9、10、15、16章
		専門基礎	生物学	エッセンシャル細胞生物学(第4版:南江堂、中村桂子、松原謙一 翻訳):7、8、9、10、14、16、17章
	森林生産制御学	専門	森林生態学 樹木学	1. 森林生態学(朝倉書店、石井弘明他編集、2019年):全章 2. 樹木学(築地書館、ピーター・トーマス、2001年):第2章~第5章、および木材科学講座2 組織と材質(海青社、古野・澤辺編、2011年):全章 1か2のいずれかを選択。
		専門基礎	生物学	コア講義 生物学(改訂版:裳華房、田村隆明著、2021年)1、2、3、11、12、13章
	流域環境制御学	専門	森林水文学 景観管理学	・森林水文学入門(朝倉書店、大槻恭一他編著、2022年) ・森のバランス(森林立地学会編、東海大学出版会、2012年)のいずれかを選択。
		専門基礎	基礎統計学	・入門統計学 第2版(オーム社、栗原 伸一著、2021年):1~8章
生産環境科学	灌漑利水学	専門	灌漑工学 利水工学	灌漑工学:新編灌漑排水 上巻(養賢堂、丸山利輔他共著)第1章~第5章 利水工学:農業水利演習1 農業水文(コロナ社、石橋豊他共著、6章水文確率~10章単位関法)、LP法、タンクモデル
		専門基礎	土壌物理学	土壌物理学(宮崎 毅、長谷川周一、粕淵辰昭著、朝倉書店、2015年)全編
	水環境学	専門	水環境工学	農業農村地域(河川・湖沼・沿岸域ならびに集水域)の水環境ならびにその解析手法
		専門基礎	水理学	静水力学、ベルヌーイの定理、運動量の定理、管路路定常流、開水路定常流
	土環境学	専門	農地環境工学	農地の役割、世界の食料生産と農地、乾燥地と環境問題、開発と環境保全、水田の構造・土壌と多面的機能、水田の地耐力と汎用化、水田の圃場整備、畑地の圃場整備と造成、農地の保全と防災(水食、地すべり)
		専門基礎	土質理工学	土の基本的性質(土の生成、組成、粒度、コンシステンシー、締固め)、土中の水とその流れ、土の圧縮と圧密、土の自重による地盤内応力、土のせん断、土圧、斜面の安定
	土壌学	専門	土壌学	大学向けの「土壌学」、「土壌サイエンス」などの教科書でカバーされている内容
		専門基礎	分析化学	酸塩基平衡、沈澱平衡、錯形成平衡、酸化還元平衡など、基礎分析化学でカバーされている物理化学的な事項
	気象環境学	専門	農業気象学 園芸環境工学	地表面における微気象、植物の環境応答、農業気象災害、気候変動影響・適応、施設の環境調節
		専門基礎	気象学	大気の構造、放射、大気力学・運動、大気熱力学、降水過程、気候変動
	農業生産システム設計学	専門	生物生産機械学	農作業(播種、耕うん、移植、管理、収穫)機械の構造・役割・機能と農業動力(生物生産とエネルギー、内燃機関)に関して出題
		専門基礎	材料力学	棒要素の圧縮・引張、棒要素のねじり、梁のせん断力と曲げモーメント、断面の幾何学、梁のたわみ、応力とひずみ
	農産食料流通工学	専門	農産食料工学	収穫後の農産物の選別、調製、加工、乾燥、冷却、貯蔵、鮮度保持、非破壊品質評価などポストハーベスト技術と農産施設に関して出題
		専門基礎	熱工学	熱力学の法則、熱サイクル、伝熱(熱伝導、熱伝達、熱放射)、冷凍機、ヒートポンプ、空調
	数理モデリング学	専門	応用数学	Mathematical Biology I, II(Springer, Murray James D., 2003年)
		専門基礎	微分方程式 数値シミュレーション	解の存在一意性の定理、不動点の安定性、解の行動、確率、統計、MATLAB、Python

環境農学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
サステイナブル資源科学	木質資源理学	専門	木質理学	①木材の材質, ②木材の物理, ③木材の組織 木材科学講座2「組織と材質」海青社, 木材科学講座3「木材の物理」海青社
		専門基礎	樹木解剖学	木質の構造(第3章 維管束の発達と形成層の活動)文永堂
	木質材料工学	専門	木質材料工学	木材科学講座3「物理」(海青社:高橋徹・中山義雄編)第1章～第4章のうち木材に関する専門事項、及び、木材科学講座8「木質資源材料」(海青社:鈴木正治・徳田迪夫・作野友康編 改訂増補):第5章木質資源材料-第1節～第6節(第7節～第9節も参照されると、この分野の理解が進みます)、または、これら2冊と同等以上の木材及び木質材料に関する専門書
		専門基礎	木質材料基礎科学	木材科学講座3「物理」(海青社:高橋徹・中山義雄編)第1章～第4章のうち木材に関する基礎事項、及び、木材科学講座8「木質資源材料」(海青社:鈴木正治・徳田迪夫・作野友康編 改訂増補):第1章木質資源と材質特性-第1節～第3節、または、これら2冊と同等以上の木材及び木質材料に関する専門書
	森林化学	専門	木質化学	木質の形成第2版(福島ら編) 4章(リグニン)および5章(抽出成分) 海青社 木材の化学(原口ら著) III章(リグニン)およびIV章(抽出成分) 文永堂出版
		専門基礎	有機化学	ベーシック有機化学 第2版(山口ら著) 化学同人
	生物資源化学	専門	木質化学	木材学 基礎編(海青社、日本木材学会 編) 第7章(セルロース・ヘミセルロース)および第8章(紙・セルロースナノファイバー) 木材科学講座4「木材の化学」(海青社、川田俊成・伊藤和貴 編)
		専門基礎	化学・生化学	生命系の基礎有機化学(化学同人、赤路健一・福田常彦 著)
	高分子材料学	専門	生物高分子材料学	木質の形成第2版(福島ら編) 1章(1. 10細胞壁構造)、2章(セルロース)および3章(ヘミセルロース) 海青社、生体材料の構造と機能(宮入裕夫著)養賢堂 (いずれも参考書、詳細は担当教員まで)
		専門基礎	高分子化学	高分子化学序論(岡村ら(著)), パーロー生命科学のための物理化学 第2版(第1章～第4章, 第11章, 第12章)
	森林圏環境資源科学	専門	植物生理生態・有機化学	1. 植物の生態-生理機能を中心に、 裳華房、寺島一郎 著 2. ベーシック有機化学 第2版、化学同人、山口良平、山本行男、田村類 共著 のそれぞれの範囲から出題し、どちらかを選択
		専門基礎	生化学・植物生理学	ヴォート 基礎生化学 第4版、東京化学同人 に準ずる内容
	バイオマテリアルデザイン	専門	多糖科学・生体材料学	木質の形成第2版(福島ら編) 1章(1. 10細胞壁構造)、2章(セルロース)および3章(ヘミセルロース) 海青社、生体材料の構造と機能(宮入裕夫著)養賢堂 (いずれも参考書、詳細は担当教員まで)
		専門基礎	高分子化学・生命科学	高分子化学序論(岡村ら(著))化学同人、生命科学(東京大学生命科学教科書編集委員会編)羊土社

農業資源経済学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
農業資源経済学	食料農業政策学 農業経営学 食料経済分析学 食料流通学 環境生命経済学	専門	農業資源経済学	食料農業政策学、農業経営学、食料経済分析学、食料流通学および環境生命経済学から1問ずつ計5問を出題し、志望研究分野の問題を含む2問を選択解答させる。
		専門基礎	経済学	ミクロ経済学および政治経済学から1問ずつ計2問を出題し、1問を選択解答させる。 なお、参考図書は次のとおりである。 ミクロ経済学:西村和雄「ミクロ経済学入門 第2版」岩波書店 政治経済学:北村洋基「改訂新版 現代社会経済学」桜井書店

生命機能科学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
生物機能分子化学	生物化学	専門	分子生物学、 遺伝情報の維持・ 発現機構	ヴォート基礎生化学(東京化学同人 第5版)の24～27章から出題する。
		専門基礎	基礎生化学、蛋白質化学、 遺伝子工学	ヴォート基礎生化学(東京化学同人 第5版)の3～7章から基礎生化学、蛋白質化学を出題する。
	水族生化学	専門	免疫学・比較免疫学	自然免疫の液性因子の構造と機能(微生物分子パターン認識、補体による異物の排除)、自然免疫の細胞性因子、遺伝子再構成による抗原レセプターの多様性、抗体のクラススイッチと免疫記憶、抗原提示とT細胞の役割、サイトカインによる免疫応答の制御、アレルギーと自己免疫、魚類の免疫系の特徴、免疫機構を利用した水産生物の感染症制御
		専門基礎	分子・細胞生物学、 生化学	エッセンシャル 細胞生物学(南江堂、Alberts et al. 著、中村桂子/松原謙一監訳)(1～10章)
	海洋資源化学	専門	海洋資源化学・ 海洋微生物学	生命の起源と海、海洋生物毒、生物発光、マリンゲノム、高度不飽和脂肪酸(DHA, EPA)、海洋微生物の分類・同定・生理・生態・利用。食中毒。水圏生化学の基礎(恒星社 恒星閣)4章、5章。過去の問題を参照のこと。
		専門基礎	生化学	ヴォート基礎生化学(東京化学同人 第5版) II. 生体分子 第3章から第10章まで。
	生物物理化学	専門	生物物理化学・ 生化学	専門基礎の範囲に加えて Mike Williamson「Essential タンパク質科学」南江堂を基本的に出題範囲とする。
		専門基礎	生物物理化学・ 生化学	「ヴォート基礎生化学 第5版」東京化学同人 第1章から第13章までを基本的に出題範囲とする。
	植物栄養学	専門	植物分子 細胞生物学	植物の生化学・分子生物学(学会出版センター B. Buchananら著、杉山達夫監訳) 第1章、第2章、第3章、第4章、第7章、第9章、第13章、第15章、第16章、第17章、第18章、第22章、第23章。なお、過去の問題も参照のこと。
		専門基礎	植物生理学、 植物栄養学、 生化学、 細胞生物学	植物生理学概論(培風館 桜井英博ら著) 第 2,3,4,6,7,8,10,11,12,13章 植物栄養学(文英堂出版 間藤徹ら著) 第 3,4章 ヴォート 生化学(下)第4版(東京科学同人 D.Vogtら著 田宮信雄ら訳) IV 代謝(光合成) Essential細胞生物学 第4版(南江堂 B. Albertsら著 中村桂子ら訳)8,11,12,15,16章
	農業薬剤化学	専門	有機化学 機器分析学	専門基礎の範囲に加えて、有機分子の構造決定法を含む有機化学全般 現代有機化学(ポルハルト・ショアー著、大鷹幸一郎他訳)上下巻 [参考図書として、有機化合物のスペクトルによる同定法 (Robert M. Silverstein他著、岩澤伸治他訳)]
		専門基礎	有機化学	現代有機化学(ポルハルト・ショアー著、大鷹幸一郎他訳)上巻
	ゲノム化学工学	専門	分子生物学・ ゲノム工学	細胞の分子生物学 第6版 著者: ALBERTS, JOHNSON, LEWIS, MORGAN, RAFF, ROBERTS, WALTER. 進化するゲノム編集技術(NTS出版社、真下知士、城石俊彦監修、初版)。
		専門基礎	分子生物学	Essential細胞生物学(南江堂、中村桂子、松原謙一監訳、原初第3版)項目2(P40-63)、項目7～10(P232-354)、項目14&15(P453-526)
	細胞内ダイナミクス			

生命機能科学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
システム生物学	遺伝子制御学	専門	分子細胞生物学	遺伝子の発現制御機構(細胞の分子生物学(第6版、Newton Press)の第7章)に関する基本的な知識を試験範囲とする。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	細胞生物学	細胞の基礎的な知識に関して、Essential 細胞生物学(南江堂、中村桂子、松原謙一監訳、原書第5版):1章~10章を出題範囲とする。
	細胞制御工学	専門	細胞工学	細胞工学(講談社、永井和夫他著、改訂)を試験範囲とする。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	細胞生物学	Essential細胞生物学(南江堂、原書第5版):2,6~8,13~20章を出題範囲とする。
	合成生物学	専門	合成生物学	遺伝子スイッチ(オーム社、Mark Ptashne著)(p.1-154)、細胞を創る・生命システムを創る(羊土社、竹内昌治、上田泰己編)(p.18-215)
		専門基礎	システム生物学	システムバイオロジー(秀潤社、北野宏明著)序章から第11章(p.12-272)
	発酵化学	専門	微生物生産	微生物細胞の構造・機能、微生物の有用物質生産への利用
		専門基礎	応用微生物学	遺伝子から見た応用微生物学(朝倉書店、熊谷英彦他著)
	微生物工学	専門	微生物工学	生物化学工学基礎のきそ(日刊工業新聞社、種村公平著)を試験範囲とする。章末問題を参照のこと。
		専門基礎	基礎微生物学	応用微生物学第3版(文永堂出版)の第3章、第4章、第5章を試験範囲とする。
	土壌環境微生物学	専門	土壌環境微生物学	応用微生物学(文永堂出版、横田篤他著、第3版)の第3章から第10章。
		専門基礎	細胞生物学	Essential細胞生物学(南江堂、Bruce Alberts他著、原書第4版または第5版)第8,9,13,14章を試験範囲とする。
	生物機能デザイン	専門	アミノ酸の代謝生化学・タンパク質の栄養生理学	①ヴォート生化学(東京化学同人)IV.代謝の第14~18章、第21章「アミノ酸代謝」および第22章「哺乳類燃料分子の代謝」、②基礎栄養学(南江堂、編集 奥恒行、柴田克己:改訂第3版)第8章「タンパク質の栄養」、③タンパク質・アミノ酸の新栄養学(講談社サイエンティフィック、編集 岸恭一、木戸康博)第1編 第7章「アミノ酸による遺伝子発現の調節」、第II編 第3章「アミノ酸の栄養」、を出題範囲とする。過去の出題問題も参照すること。
		専門基礎	分子生物学・遺伝子工学・実験動物学	分子生物学と遺伝子工学は、Essential細胞生物学(南江堂、Bruce Alberts他著、原書第5版)第7~13章を出題範囲とする。実験動物学については参考図書として「ノックアウトマウスの一生」(技術評論社 八神健一著)を指定するので一読しておくこと。過去の出題問題も参照すること。
	家蚕遺伝子資源学	専門	家蚕遺伝子資源学	カイコの科学(朝倉書店、日本蚕糸学会編)、最新応用昆虫学(朝倉書店、田付貞洋・河野義明編)を試験範囲とする。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	遺伝学・昆虫学	Essential細胞生物学(南江堂、Bruce Alberts他著、原書第5版):第18章細胞周期と第19章有性生殖と遺伝学を試験範囲とする。分子昆虫学(共立出版、神村ら編):第1、2、3、7章を試験範囲とする。また、過去に出題した問題を参考のこと。
	植物遺伝子資源学	専門	植物遺伝子資源学 植物遺伝子工学	「植物育種学」(東京大学出版会、鶴飼保雄著):第3章遺伝資源の探索と導入、第10章突然変異育種、第12章遺伝子組換え育種、を試験範囲とする。また、過去の出題問題を参照すること。
		専門基礎	遺伝学 細胞生物学 発生生物学	「生命科学のための基礎シリーズ 生物」(実教出版、星元紀他著):第2章分子から細胞へ、第3章個体の生物学、を試験範囲とする。また、過去の出題問題も参照すること。
	微生物遺伝子資源学	専門	微生物遺伝子工学	基礎から学ぶ遺伝子工学 第3版(羊土社、田村隆明著):第1章から第13章までを試験範囲とする。また、過去に出題した問題を参考のこと。
		専門基礎	微生物学	応用微生物学(文永堂出版、横田篤他著、第3版)の第3、4、6、9章を試験範囲とする。また、過去に出題した問題を参考のこと。
真核細胞微生物学	専門	分子細胞生物学	細胞の分子生物学 第6版 著者: ALBERTS, JOHNSON, LEWIS, MORGAN, RAFF, ROBERTS, WALTER. Chapter 8-9, 15-17	
	専門基礎	分子生物学	Essential細胞生物学(南江堂、中村桂子、松原謙一監訳、原書第5版)第5-10章	

生命機能科学専攻

教育コース	研究分野		出題領域	出題範囲
食料化学工学	食糧化学	専門	食品機能化学	「新スタンダード栄養・食物シリーズ13 分子栄養学」, 東京化学同人
		専門基礎	食品基礎科学	食品科学の基礎となる下記分野の基礎的問題を出題する。 1 一般化学(参考図書として「パーロー生命科学のための物理化学(第1章～第6章, 第9章, 第10章)」, 「基礎分析化学(第1章～第4章)」) 2 有機化学(参考図書として「ベーシック有機化学」) 3 生化学(参考図書として「ヴォート基礎生化学(第Ⅱ章～第Ⅳ章)」) 上記分野から出題される3問から2問を選択解答
	栄養化学	専門	三大栄養素(糖質、タンパク質、脂質)	基礎栄養学(奥恒行、柴田克己編集 南江堂、改訂第5版)第3章栄養素代謝の概要、第5章消化・吸収と栄養素の体内動態(G.食物繊維・難消化吸収性糖質の作用を除く)、第6章タンパク質の栄養、第7章糖質の栄養、第8章脂質の栄養を出題範囲とする。
		専門基礎	食品基礎科学	食品科学の基礎となる下記分野の基礎的問題を出題する。 1 一般化学(参考図書として「パーロー生命科学のための物理化学(第1章～第6章, 第9章, 第10章)」, 「基礎分析化学(第1章～第4章)」) 2 有機化学(参考図書として「ベーシック有機化学」) 3 生化学(参考図書として「ヴォート基礎生化学(第Ⅱ章～第Ⅳ章)」) 上記分野から出題される3問から2問を選択解答
	食品分析学	専門	食品分析	食品分析学 改訂版(培風館)第1章から第8章まで
		専門基礎	食品基礎科学	食品科学の基礎となる下記分野の基礎的問題を出題する。 1 一般化学(参考図書として「パーロー生命科学のための物理化学(第1章～第6章, 第9章, 第10章)」, 「基礎分析化学(第1章～第4章)」) 2 有機化学(参考図書として「ベーシック有機化学」) 3 生化学(参考図書として「ヴォート基礎生化学(第Ⅱ章～第Ⅳ章)」) 上記分野から出題される3問から2問を選択解答
	食品衛生化学	専門	食品衛生学	「新スタンダード栄養・食物シリーズ8 食品衛生学」, 東京化学同人
		専門基礎	食品基礎科学	食品科学の基礎となる下記分野の基礎的問題を出題する。 1 一般化学(参考図書として「パーロー生命科学のための物理化学(第1章～第6章, 第9章, 第10章)」, 「基礎分析化学(第1章～第4章)」) 2 有機化学(参考図書として「ベーシック有機化学」) 3 生化学(参考図書として「ヴォート基礎生化学(第Ⅱ章～第Ⅳ章)」) 上記分野から出題される3問から2問を選択解答
	食品製造工学	専門	食品製造工学	食品工学入門(食品を造る基礎科学)の全範囲から出題。カルチュレード(株) ISBN978-4-905179-07-8
		専門基礎	食品基礎科学	食品科学の基礎となる下記分野の基礎的問題を出題する。 1 一般化学(参考図書として「パーロー生命科学のための物理化学(第1章～第6章, 第9章, 第10章)」, 「基礎分析化学(第1章～第4章)」) 2 有機化学(参考図書として「ベーシック有機化学」) 3 生化学(参考図書として「ヴォート基礎生化学(第Ⅱ章～第Ⅳ章)」) 上記分野から出題される3問から2問を選択解答

1.口頭試問

専攻	教育コース	博士後期課程 口頭試問
資源生物科学	農業生物科学	これまでの研究概要の英語要約(A4、1枚程度)及びその内容のプレゼンテーション(プレゼンテーションは日本語も可)。英語資格試験スコア提出は不要。
	動物・海洋生物科学	これまでの研究概要の英語要約の提出(A4、1枚程度)及びその内容の英語スライドによるプレゼンテーション(プレゼンテーションは日本語も可)。外国語資格試験スコア提出は不要。
環境農学	生産環境科学	修士論文等の口頭発表と口頭試問。別途出題する外国語筆記試験を実施。
	森林環境科学	これまでの研究概要の英語要約の提出及びその内容のプレゼンテーション(プレゼンテーションは日本語も可)。英語資格試験スコア提出は不要。
	サステナブル資源科学	英語説明のあるスライドによるプレゼンテーションおよび英語発表要旨(A4、1枚程度)の提出。
農業資源経済学	農業資源経済学	外国語資格試験スコアの提出。(以下2を参照。) 修士論文の口頭発表と口頭試問を行う。
生命機能科学	生物機能分子化学	修士論文又は業務内容の英語要約及び英語スライドによるプレゼンテーション(プレゼンテーションは日本語も可)。外国語資格試験スコア提出は不要。
	システム生物学	修士論文又は業務内容の英語要約及びその内容のプレゼンテーション(プレゼンテーションは日本語も可)。英語資格試験スコア提出は不要。
	食料化学工学	修士論文又は業務内容の英語要約及びその内容のプレゼンテーション(プレゼンテーションは日本語も可)。英語資格試験スコア提出は不要。

2.外国語試験 (農業資源経済学専攻)

- ・外国語試験は下記の外国語資格試験スコア証明書(写し)を入学願書とともに提出すること。
- ・試験当日スコア証明書(原本)を必ず持参すること。
- ・試験スコアの正式な証明書の取得には時間がかかる事に留意すること。

専攻	事前提出する外国語スコア証明書
農業資源経済学	TOEIC(L&R) 550点以上またはTOEFL-iBT 57点以上

- (1)スコア証明書とは、実施団体が発行し本人に直接郵送されたもので、TOEIC(L&R)のOfficial Score Certificate(公式認定証)またはTOEFL-iBTのTest Taker Score Report(受験者成績書)を指す。いずれのスコアも出願書類提出時から2年以内のものに限る。
- (2)以下のスコアは認められない。
TOEIC IP、カレッジTOEIC、TOEFL ITPテストなどの団体受験制度
TOEIC Speaking and Writing、TOEIC Bridge、TOEIC IP Score Reportなど
- (3)注意事項
 - ・願書提出時にスコア証明書(写し)を提出すること。
 - ・出願要件にスコアが設定されているので留意すること。
なお、設定スコア未満の願書は出願できない。また、設定スコアは外国語試験の合格を意味しない。
 - ・出願時より新しいスコア証明書(原本)を持参してもよい。最終的な評価は当日持参のスコア証明書(原本)のみに拠る。原本に関しては試験当日の本人確認後、本人へ返却します。
 - ・試験当日スコア証明書(原本)を忘れた場合は、8月25日(金)17時までに、九州大学農学部等事務部学生課学生係へ持参又は郵送すること。
なお、郵送の場合は、返信用封筒を同封のうえ、8月25日(金)17時必着とする。
スコア証明書(原本)提出について、提出期限厳守とし期限を過ぎてからの提出は認めない。

修士課程

研究分野及び指導教員一覧

※研究内容等の詳細についてはホームページ(<https://www.agr.kyushu-u.ac.jp/organization/teacher/index-mas.html>)を参照すること。

専攻	教育コース	研究分野	教授	准教授・講師	専攻	教育コース	研究分野	教授	准教授・講師
資源生物科学	農業生物科学	植物育種学	安井 秀	山形 悦透	農業資源経済学	農業資源経済学	食料農業政策学	磯田 宏	渡部 岳陽
		作物学	石橋 勇志				農業経営学	井上 憲一	
		植物生産生理学	東江 栄	齋藤 和幸			食料経済分析学	前田 幸嗣	
		植物病理学	古屋 成人	飯山 和弘			食料流通学		森高 正博
		園芸学	尾崎 行生				環境生命経済学	矢部 光保	高橋 義文
		動物学		岩森 巨樹			国際農業開発学		野村 久子
		昆虫ゲノム科学	日下部 宜宏	門 宏明		生物化学		沼田 倫征	
		昆虫学	廣渡 俊哉(注1)	紙谷 聡志		水族生化学	中尾 実樹	杉本 智軌	
		天敵微生物学	青木 智佐			海洋資源化学		沖野 望	
		天敵昆虫学		上野 高敏 津田 みどり		生物物理化学	角田 佳充	西本 悦子	
	動物・海洋生物科学	生物保護管理学	高須 啓志		植物栄養学	松岡 健	丸山 明子		
		農業生産生態学	穴井 豊昭	酒井 かおり	農業薬剤化学	有澤 美枝子			
		生物環境調節学	吉田 敏	江口 壽彦	ゲノム化学工学	中村 崇裕	風間 智彦		
		熱帯作物・環境学			細胞内ダイナミクス	Drummond Douglas Robert			
		昆虫産業創生学		Lee Jaeman	遺伝子制御学		田代 康介(注1)		
		衛生昆虫学		藤田 龍 介	細胞制御工学	片倉 喜範			
		家畜生体機構学	保坂 善真	西村 正太郎 スルチョードリ ビシュワジット	合成生物学	花井 泰三			
		動物繁殖生理学		山内 伸彦	発酵化学	竹川 薫	樋口 裕次郎		
		畜産化学	辰巳 隆一	鈴木 貴弘	微生物工学	中山 二郎	善藤 威史		
		代謝・行動制御学	安尾 しのぶ	池上 啓介	土壌環境微生物学		田代 幸寛		
生産環境科学	家畜生産生態学		高橋 秀之	生物機能デザイン	古屋 茂樹				
	動物生命科学	中村 真子		家畜遺伝子資源学		藤井 告			
	海洋生物学	太田 耕平		植物遺伝子資源学	熊丸 敏博(注1)	久保 貴彦			
	水産増殖学	小北 智之		微生物遺伝子資源学	土居 克実				
	水産生物環境学		島崎 洋平	真核細胞微生物学		前川 裕美			
	アクアフィールド科学	鬼倉 徳雄	栗田 喜久	栄養化学	佐藤 匡央				
	水族分子発生学		荻野 由紀子	食糧化学	立花 宏文	藤村 由紀			
	水族発生活性学		William Ka Fai TSE	食品分析学	松井 利郎	田中 充			
	灌漑利水学	凌 祥之(注1)		食品製造工学	井倉 則之	樺 俊太郎			
	水環境学	原田 昌佳	尾崎 彰則	食品衛生化学	宮本 敬久(注1)	本城 賢一			
環境農学	森林環境科学	土壌学	金山 素平		食料化学工学	栄養化学	佐藤 匡央		
		土壌学	平館 俊太郎			食糧化学	立花 宏文	藤村 由紀	
		気象環境学	廣田 知良	安武 大輔		食品分析学	松井 利郎	田中 充	
		農業生産システム設計学	岡安 崇史	平井 康丸		食品製造工学	井倉 則之	樺 俊太郎	
		農産食料流通工学	田中 史彦			食品衛生化学	宮本 敬久(注1)	本城 賢一	
		数理モデリング学		Ta Viet Ton					
		植物代謝制御学		後藤 栄治					
	森林計画学	溝上 展也	太田 徹志						
	森林保全学	執印 康裕	水野 秀明						
	造林学	渡辺 敦史							
森林政策学	佐藤 宣子	藤原 敬大							
サステイナブル資源科学	森林生産制御学	古賀 信也	榎木 勉 内海 泰弘 市橋 隆自						
	流域環境制御学	久米 朋宣	笠原 玉青 菱 拓雄 智和 正明						
	木質資源理学	(兼)堤 祐司							
	木質材料工学	(兼)堤 祐司	藤本 登留(注1)						
	森林化学	堤 祐司	小名 俊博						
	生物資源化学	北岡 卓也	一瀬 博文						
	高分子材料学		巽 大輔						
森林圏環境資源科学	久米 篤	清水 邦義							
バイオマテリアルデザイン		横田 慎吾							

注1 ※令和6年3月31日定年退職予定者

募集を行わない研究分野

- <資源生物科学専攻 農業生物科学教育コース>
- ・熱帯作物・環境学研究分野
- <農業資源経済学専攻 農業資源経済学教育コース>
- ・国際農業開発学研究分野
- <生命機能科学専攻 生物機能分子化学教育コース>
- ・細胞内ダイナミクス研究分野

博士後期課程

研究分野及び指導教員一覧

※研究内容等の詳細についてはホームページ(<https://www.agr.kyushu-u.ac.jp/organization/teacher/index-mas.html>)を参照すること。

専攻	教育コース	研究分野	教授	准教授・講師	専攻	教育コース	研究分野	教授	准教授・講師
資源生物学	農業生物科学	植物育種学	安井 秀	山形 悦透	農業資源経済学	農業資源経済学	食料農業政策学	磯田 宏	渡部 岳陽
		作物学	石橋 勇志				農業経営学	井上 憲一	
		植物生産生理学	東江 栄	齋藤 和幸			食料経済分析学	前田 幸嗣	
		植物病理学	古屋 成人	飯山 和弘			食料流通学		森高 正博
		園芸学	尾崎 行生				環境生命経済学	矢部 光保	
		動物学		岩森 巨樹			国際農業開発学		野村 久子
		昆虫ゲノム科学	日下部 宜宏				生物化学		沼田 倫征
		昆虫学	廣渡 俊哉(注1)	紙谷 聡志		水族生化学	中尾 実樹	杉本 智軌	
		天敵微生物学	青木 智佐			海洋資源化学		沖野 望	
		天敵昆虫学		上野 高敏 津田 みどり		生物物理化学	角田 佳充	西本 悦子	
		生物保護管理学	高須 啓志			植物栄養学	松岡 健	丸山 明子	
		農業生産生態学	穴井 豊昭			農業薬剤化学	有澤 美枝子		
		生物環境調節学	吉田 敏	江口 壽彦		ゲノム化学工学	中村 崇裕	風間 智彦	
		昆虫産業創生学		Lee Jaeman		細胞内ダイナミクス	Drummond Douglas Robert		
	衛生昆虫学		藤田 龍介	生命機能科学	システム生物学	遺伝子制御学		田代 康介(注1)	
	動物・海洋生物学	家畜生体機構学	保坂 善真			西村 正太郎 スルチョードリ ビシユワジツ	細胞制御工学	片倉 喜範	
		動物繁殖生理学				山内 伸彦	合成生物学	花井 泰三	
		畜産化学	辰巳 隆一				発酵化学	竹川 薫	樋口 裕次郎
		代謝・行動制御学	安尾 しのぶ				微生物学	中山 二郎	善藤 威史
		家畜生産生態学				高橋 秀之	土壌環境微生物学		田代 幸寛
動物生命科学		中村 真子				生物機能デザイン	古屋 茂樹		
海洋生物学		太田 耕平				家蚕遺伝子資源学			
水産増殖学		小北 智之				植物遺伝子資源学	熊丸 敏博(注1)	久保 貴彦	
水産生物環境学			島崎 洋平			微生物遺伝子資源学	土居 克実		
アクアフィールド科学		鬼倉 徳雄	栗田 喜久			栄養化学	佐藤 匡央		
環境農学	生産環境科学	灌漑利水学	凌 祥之(注1)				食糧化学	立花 宏文	藤村 由紀
		水環境学	原田 昌佳			尾崎 彰則	食糧化学	立花 宏文	藤村 由紀
		土環境学	金山 素平		食品分析学	松井 利郎	田中 充		
		土壌学	平舘 俊太郎		食品製造工学	井倉 則之			
		気象環境学	廣田 知良	安武 大輔	食品衛生化学	宮本 敬久(注1)	本城 賢一		
		農業生産システム設計学	岡安 崇史	平井 康丸					
		農産食料流通工学	田中 史彦						
		数理モデリング学		Ta Viet Ton					
	森林環境科学	植物代謝制御学	(兼)渡辺 敦史						
		森林計画学	溝上 展也	太田 徹志					
		森林保全学	執印 康裕	水野 秀明					
		造林学	渡辺 敦史						
		森林政策学	佐藤 宣子	藤原 敬大					
森林生産制御学		古賀 信也	榎木 勉 内海 泰弘						
サステイナブル資源科学	流域環境制御学	久米 朋宣	智和 正明 菱 拓雄 笠原 玉青						
	木質資源理学	(兼)堤 祐司							
	木質材料工学	(兼)堤 祐司	藤本 登留(注1)						
	森林化学	堤 祐司	小名 俊博						
	生物資源化学	北岡 卓也	一瀬 博文						
	高分子材料学		巽 大輔						
森林圏環境資源科学	久米 篤	清水 邦義							
バイオマテリアルデザイン	(兼)北岡 卓也								

注1 ※令和6年3月31日定年退職予定者

募集を行わない研究分野

- <農業資源経済学専攻 農業資源経済学教育コース>
- ・国際農業開発学研究分野
- <生命機能科学専攻 生物機能分子化学教育コース>
- ・細胞内ダイナミクス研究分野
- <生命機能科学専攻 システム生物学教育コース>
- ・家蚕遺伝子資源学研究分野

【予告：令和7年度新設分野の学生募集について】

九州大学大学院生物資源環境科学府では、令和7年4月入学者向け大学院入試（令和6年度実施）より以下の新設分野の学生募集を開始いたします。

専攻	教育コース	分野	研究内容
資源生物科学	農業生物科学	昆虫食科学	昆虫食科学研究分野では、食糧・家畜飼料としての昆虫の普及を目的として、その安全性、機能性、栄養学的知見は元より、複合飼育による安価な大量飼育技術、食品残渣や林業残渣を好んで食べる昆虫の開発、ゲノム編集技術を用いた高付加価値昆虫の創出など、昆虫を食べることの意義を理解した上で「安全・安心な昆虫食を実現する昆虫科学」の創出に関する教育研究を展開する。
		昆虫 DX	昆虫 DX 研究分野では、昆虫種同定の自動化、標本データの高度デジタル化技術の確立により、分類学的知見を応用利用するための基盤を構築し、生物多様性に基づく詳細な環境アセスメントなどの未来環境デザインに関する教育研究を展開する。

